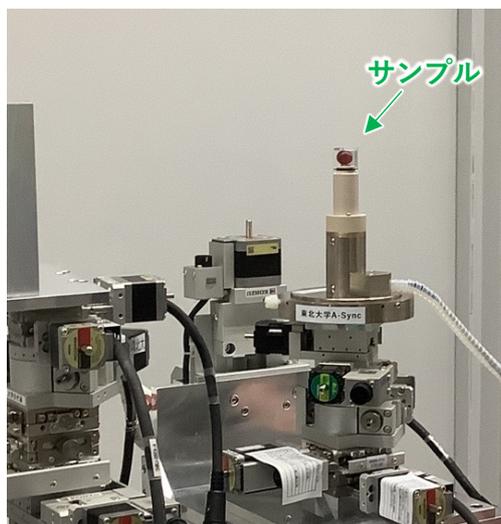


A-Syncと共創研究所の様々な挑戦

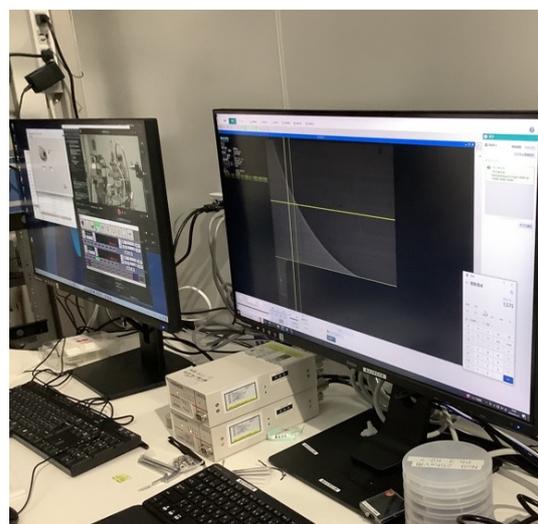
6月の小角散乱ビームライン、白色X線CTビームラインでの観察（A-sync Newsletter 27）に続き、7月10日にはSRISの矢代 航研究室のご協力のもと、白色X線CTビームラインに設置されたより高精細な撮影ができる解析装置を用いて、「NanoTerasu戦略的活用推進支援制度」を活用した測定を行いました。装置にはブドウが載っていますが、観察できるのは5 mm四方の範囲です。

一方、「NAGASE×東北大学 Delivering next.共創研究所」（A-sync Newsletter 26）でも7月に2回測定を行いました。高分解能X線CTのビームラインでは、直径1~4 mmのチューブに詰めた0.1 mm以下の食品粉末の内部構造を観察しました。より大きな直径2 cmの容器に入れた食品サンプルの観察も白色X線CTビームラインで行いました。8時間の枠の最初の2時間ほどを設定に費やしましたが、一度ルーチン作業に入るとスムーズに進み、予定したサンプル20本以上を時間内に測定することができました。

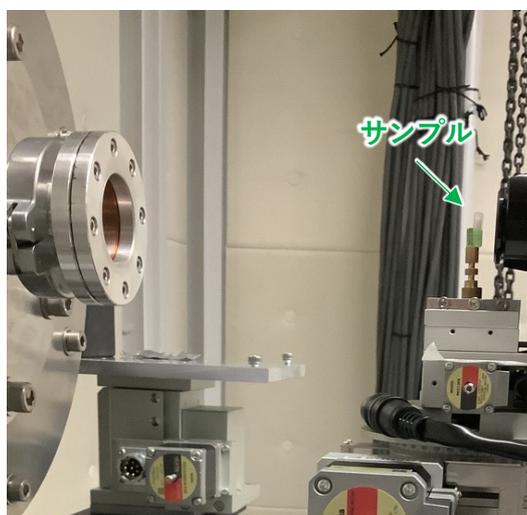
引き続き様々なビームラインで食品試料の分析経験を積み、生命科学への応用へと広がっていきます。



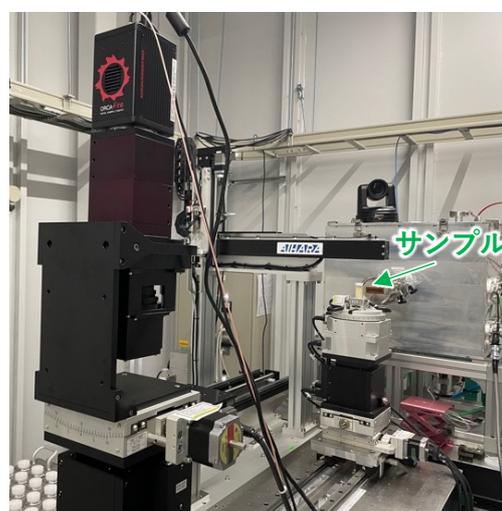
矢代研の測定器にA-Syncの温度調節機を取り付けました。（白色X線CT）



より精密な構造観察に挑戦するため、時間がかかります。（白色X線CT）



直径1 mmのチューブにサンプルをセット（高分解能CT）



温度調節装置なしでサンプルをセットして観察（白色X線CT）